

資料紹介 小田原コレクション

—小田原利光博士収集のカニ類標本— 村岡健作 (学芸員)

当館の収蔵標本のなかで、今回は東京都港区麻布十番にお住まいの小田原利光先生からご寄贈いただいたカニ類のコレクションについて紹介します。

小田原先生はカニやエビなどの研究者として国内はもとより外国でもよく知られていますが、本職は医師。大正8年生まれで、今も現役で居住地の麻布十番で診療に従事されています。先生は東京慈恵会医科大学在学中に甲殻類の研究で著名な中澤毅先生のご講義も受講され、カニ類への興味をより一層かき立てられたとのこと。昭和18年に医大を卒業されてからもこの興味は尽きることなく、当時の甲殻類研究者とも交流を深めながら調査研究を続けられ、採集にも度々出かけられていました。

先生は私財をなげうって昭和36年2月に「私立小田原甲殻類博物館」を病院の一角に設置されました。ここに昭和12年以来収集された膨大な標本を先生ご自身で整理保管し展示をされていました。今は亡き学界の著名学者であった岡田要、久保伊津男、酒井恒、三宅貞祥諸先生をはじめとして多くの先生方もここを訪れていますし、外国の甲殻類学者にもよく知られ、来日すると必ずと言っていいほど訪問されています。

これらの標本は長年にわたって甲殻類博物館に展示、保管され研究者をはじめとして多くの人に利用されてきました。しかし、標本は既に先生ご自身が保存管理できる点数を大きく

上回るほどになってしまい、このままではいろいろと支障をきたすことが予想され、先生はどこかの博物館にコレクションとして永く保存し、研究や展示に役立てて欲しいと考えられていました。そこで白羽の矢がたったのが当館の前身である神奈川県立博物館でした。館では早速ご寄贈をお願いし、平成6年3月に「小田原コレクション」として受け入れを完了しました。

寄贈されたカニ類標本は先生ご自身が国内各地に赴いて採集されたものも多く、度々出かけられた場所は、東京に近い神奈川県や千葉県などのほか、遠くは福井県越前町、愛知県一色町、三重県の志摩町和具、紀伊長島町、和歌山県南部町、鹿児島県の鹿児島市周辺や与論島、沖縄県の本島や先島諸島などです。そのほか全国各地の研究者やアマチュアなどから、さらには外国の学者からの寄贈や交換などにより国内ばかりでなく外国から入手されたものも数多くあります。その標本点数は約15,500点で、その内訳は液浸標本が約8,500点(他に未整理標本が約1,000点)、乾燥及び剥製標本が約6,000点です。これらのなかにはタイプ標本 (Allotype) で先生の還暦を祝して献名された異尾類 (ヤドカリ類) のオダワラフサイバラガニ (*Lopholithodes odawarai Sakai*) も含まれています。館にはこれ以前にも先生よりタカアシガニの剥製標本2点をご寄贈いただき、このうちの1点は県立博物館が休館する平成5年まで展示していました。

このコレクションと既に当館に所



小田原コレクションの一部、乾燥標本の収納の様子。

蔵している酒井コレクションとを合わせると、質、量ともにより充実し、これだけの内容を誇る館は国内では見あたらないと言っても過言ではありません。貴重な標本をご寄贈いただいた先生に感謝するとともに、今後、館の活動のなかでいろいろと活用してゆきたいと考えています。なお、先生は昭和62年には神奈川県立博物館長、平成6年には神奈川県知事より表彰されています。さらに平成6年11月には内閣総理大臣より紺綬褒章を受章されています。

現在当館では、このコレクションの標本目録をなるべく早い時期に刊行できるよう準備を進めています。また、平成11年1月には酒井コレクションを用いてのカニの展覧会を開催しますので、このなかで、小田原コレクションも一部紹介したいと考えています。



小田原利光先生。1998年3月先生宅にて。



先生の還暦を祝して献名されたオダワラフサイバラガニ (タイプ標本)。

自然科学のとびら
第4巻第4号 (通巻第15号)
1998年12月15日発行
発行 神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846
e-mail: plan@patnet.ne.jp
発行人 濱田隆士
編集 佐藤武宏
印刷所 フルサワ印刷株式会社

自然環境保護のため再生紙を使用しています